

平成 30 年度 摂津市立味舌小学校 第 5 回学校協議会 会議録

平成 31 年 2 月 27 日(水) 19:00～20:30

摂津市立味舌小学校 南棟 1 階学習室にて

(出席委員)榎谷佳純、門野さとみ、小澤香織、吉田栄子、中居正一、以登田毅、河合隆之

(欠席委員)高森佳代子、前田文雄

(敬称略)

(学校出席者)校長 前馬晋策、教頭 羽田行伸

1. 校長よりあいさつ

前回の学校協議会で、次年度へ向けて新委員の推薦をお願いしたところ、前田委員より 1 名ご推薦をいただいた。今後も候補者があれば推薦をお願いしたい。

2. 報告・協議事項

(1)前回協議会から今回までの主な出来事

2 月 3 日 市 PTA 大会 広報誌コンクールで銀賞を受賞

2 月 4 日 3 年生クラブ見学

2 月 7 日 デジタルフォトフレームを寄贈いただいた(株)荻建設 荻ノ迫氏に感謝状を贈呈
研究発表会(公開授業、研究協議、全体会)

2 月 12 日 地震避難訓練(20 分休みに実施)

2 月 13 日 ノーチャイムデー

2 月 15 日 6 年生お別れ遠足(ひらかたパーク)

2 月 20 日～22 日 マラソン大会

2 月 21 日 3 年生七輪体験

2 月 22 日 腰塚先生来校(朝会でも児童に腰塚先生の言葉を紹介させていただいた)

2 月 23 日 大阪府「教育コミュニティづくり」実践交流会 榎谷会長より味舌小学校区の取組みを報告

いよいよ卒業式。職員会議でも年度末反省を行い、次年度の準備を進めている。

(2)平成 31 年度味舌小学校経営計画について

(校長) 平成 30 年度学校経営計画を総括し、学校評価アンケートを踏まえて自己評価を行い、学校協議会の会議録、学校協議会からの提言(関係者評価)などを添付して、教育委員会に提出した。併せて、平成 31 年度の学校経営計画も提出した。

学校経営計画に係る校長ヒアリングを後日受けるが、その際のプレゼン内容も含めて、皆様に計画をお示しする。

①12⇒味舌小学校の 12 か月

4 月入学式

5 月第 1 回民生・児童委員会

6 月大阪北部地震

7月西日本豪雨
 8月猛暑
 9月台風14号
 10月運動会、修学旅行
 11月千葉市花見川区教頭会視察
 12月保幼小交流
 1月 English Day
 2月研究発表会
 3月学校経営計画ヒアリング

上半期は、自然災害等への対応に追われた印象。ようやく後半落ち着いて学校教育の充実に取り組めた印象。

②今感じていること

32.6(教諭の平均年齢)⇒驚き

78(研究発表会の外部参加者)⇒手応え 研究はスタートしたばかりだが…

3(1)⇒5(3) (()内の新規不登校児童数が増加)⇒反省

88.7 96.6 71.4(学校評価アンケート提出率(左から保護者、児童、教職員))

90.4 94.9 (90.6) 90.0(同アンケートでの行事への肯定的回答率) ⇒行事に対する期待度・満足感の表れ 今後行事をどう進化させていくかが課題

53.5 47.9(児童の相談体制への否定的回答率)⇒ショック！ しかし本当にショックを受けているのは児童ではないかと考える

③次年度に向けて

10/19(経験年数6年未満の教諭)⇒次年度さらに増加か？ 育成体制の再構築が必要

5/18(学級数の約1/3が支援学級)⇒特別支援教育の充実を図りたい

44.4⇒20.0 35.9⇒10.0(学校評価アンケートで理科やICTに係る否定的回答率の減少を図りたい)⇒理科(実験・観察)、ICT(機器の操作など)の改善 児童の論理的思考力の向上のためにも必要

3⇒0(新規不登校児童をゼロに！)⇒魅力的な学校づくり(行きたくてたまらない学校づくり)

65.0⇒100(校長の話がわかりやすいに対する児童の肯定的回答率)⇒児童向けの校長からの発信をさらに考えたい

146(開校146年目)⇒地域の児童への成長への願いをしっかりと受け止めたい 学校協議会・PTAとの連携のさらなる充実を進める

428(次年度予定児童数)⇒児童に学ぶ力を育むことが最大の学校の使命 そのため教職員の資質・能力の向上、児童の自律・自立をめざした教育活動、特別支援教育の推進を図る基盤としての様々な連携 それらをマネジメントできる校長としてリーダーシップを発揮したい

2020.03.31(次年度最終日にやり切ったと満足できるように)⇒同時 2020.04.01からの教育活動のスタートにつながるように ◎安全で安心な学校づくり ◎確かな学力を育む学校づくり ◎誰からも愛される学校づくり に取り組みたい。

(委員) 「学ぶ力」というよりも、「学び合う力」というのを意識するといいいのでは？友達とともに学ぶことで関係づくりができる。それによる大きな効果もあるのでは。

「自立」を取り違えて指導すると、人に頼ることができないようにしてしまうこともある。それが故に不幸なことになってしまうこともある。何かあったときに、周りの人に「助けて！」と言えるようにすることも大切なことだと考えている。頼ることができないために居場所がなくなる、益々うまくいかない…という連鎖で社会から離れてしまうことを防ぎ、地域社会の一員として助け合える関係づくりをしていきたい。「支援をする」だけでなく、「一緒に何かをする」力がこれから求められていくだろう。そういう力も児童には身に付けてもらいたい。

(校長) おっしゃる通りで、「自立する」とは何事も一人だけでできるようになることではないと考える。困っていることや悩んでいることを素直に発信できる力も必要。

(委員) 「我慢すること」が良いことという風潮の中で過ごしてしまうと自分の思いを素直に言うことができなくなってしまいます。そうではなく、本音で困っている部分や悩んでいる部分、勉強で言えば、わからないところを周りに素直に打ち明け、受け止めてもらえるような学級であればよいと思う。

(委員) 学級は子どもが安心感と信頼感を持って過ごすことができる場所であることを、さらに教員に意識していただき、日々の教育活動を進めて欲しい。

(委員) 「機能的・有機的な組織となるよう、PDCA サイクルに基づいて」とあるがどういうことか？また、組織的な取組みの中で、「学ぶ態度の重点を示し」とあるが、どういうことか？

(校長) まずPDCA サイクルについては、企業等で業務改善のために取り入れられた手法のこと。plan(計画)、do(実行)、check(評価)、action(改善)のサイクルは学校にも必要で、管理職だけが意識するのではなく、教職員全てが意識することが重要。やりっ放しではなく、評価と改善が教育活動の質を向上させると考えている。

次に姿勢のことについては、授業中の身体の姿勢のこともあるが、学びへの姿勢、例えば自ら学ぶことや続けて学ぶことなども含めている。自主学习(チャレンジスタディ)もその辺ことを大切にしている。もちろん、人の話を最後まできちんと聞くことや相手の方を向いて話すことなどの基本的なことも含まれる。

(委員) 私の子どもが6年生の時に帰りが遅くなることがあった。放課後に残って、勉強で分からないところがあるなど課題達成ができていない子どもと一緒に宿題をしたり、考えたりしていたようだ。担任の先生がそのように働きかけてくれていたのだと思う。

(委員) 人に教えるということで、教える側の知識の定着はより確かなものとなる。授業の中で少しでもそんな時間を取ることができると効果的だろう。

(校長) 学び合いはスタイルだけではなく、個々の状況に応じて学びが深められていくべきものだと考える。形骸化しないよう取組みを進めたい。

(委員) 話題は変わるが、民生・児童委員との定期的な懇談会は全ての学校で行っているのか？

(校長) 現在本校では月に1回行っているが、他校と比較しても多く開催しているのではないかと。

(委員) 前校区長が、民生・児童委員から学校に働きかけ開催してきた。守秘義務を踏まえ、児童が安心して学校へ通えるように、学校とこれから協力し合い、今後も継続することが課題。

(校長) 安全・安心ということで、他の方からいかがでしょうか。

(委員) 学警連絡会で、学校や警察と定期的に連絡会を持っている。中学生になると、勉強がわからなくなってしまい、学校の外に目が向いてしまうこともある。そんな時、先生だけ

でなく地域の大人が関わってあげることも必要。放課後の勉強もそういった地域の大人の力をお借りすることはできないか？

(校長) 地域の方と一緒に児童の支援の方法を考えたい。児童の中には、「特別な支援」が必要な子どももいる。学校でも特別支援教育に関わる知識・技能を教員がもっと高めたいと考えているが、特別支援教育への理解、さらには支援を要する児童についての理解を保護者や地域へ広げることも考えていかねばならない。

(委員) そういった話も受けて「ユニバーサル・デザイン」の視点のもと、誰にとってもわかりやすい授業づくりや子どもへの働きかけができることで保護者や子どもの信頼も大きく変わってくる。周りの子どもお互いにわかり合っている関係・つながりづくりをしていくことができるとよい集団になると思う。

(校長) 「勉強がわからない」と言っている児童の話の聞くと、板書の量が多くて書けないとか話すスピードが速くて追いつけないというケースもあった。児童の困り感の受け止めと適切な対応が求められると感じている。

(委員) この間の七輪体験でも、お餅を食べるのが遅い子どもに先生は急がせるでもなく、先生も「食べ終わるまで待っていますよ！」とあって、決して急かすことがなかったことに感心した。

(委員) 大人は「早く食べろ」と言いたくなってしまうところだが…。

(委員) 最後のきな粉までゆっくり食べている子もいましたね(笑)

(委員) いろいろな子がいて「みんな」なんだという集団意識を持つことができることは非常に大きなことだと思う。

(校長) 給食を食べている様子を見ていて、同じように感じることもある。

(委員) 餅を入れるお皿を忘れてきた子がいて、先生にも忘れたことを伝えに行けなかった。近くの子からタッパーのふたを借りていた。箸や餅につけるものを持って来なかったようだが、周りの子どもたちは、きな粉を分けてあげたりし、助け合っていた。

(校長) 学び合うことの大切さや、どの子どもにとっても安心して生活できる学校づくりが求められていること、さらにはいいいな発信の大切さなどを学校経営において重点的に考える必要性を感じました。それでは、今日いただいた意見も踏まえて、平成 31 年度の学校経営計画を実行してまいります。

(委員) 子どもってできないことをよく発信してくれている。大人になるにつれてだんだん言えなくなることが多い。子どもが出してくれていることを大人がしっかりとキャッチしないといけない。

教職員が力を発揮できるとあるが、校長のリーダーシップを受けて、担任の先生も「自分の学級をこうしたい！」と積極的に発信していってもらいたい。懇談でも、保護者の話を聞くだけでなく、学級経営の方針をしっかりと語ってってもらいたい。

(校長) 人材育成の視点からも、学校全体の発信力を向上したい。

3. その他

(1)平成 31 年度年間行事計画について

(校長) 1 学期 始業式 4/8 終業式 7/19 2 学期 始業式 8/26 終業式 12/24

3 学期 始業式 1/8 終業式 3/24

入学式(4/5)、運動会(9/28)、修学旅行(10/21, 22)等、大きな行事の日程は概ね決まって

いる。

(2) 「置き勉」、スマホについて

① 「児童生徒の携行品に係る配慮について」

⇒児童の健康上の問題を配慮。必ず学校に置いておくように指示しているものではない。

② 「携帯電話の校内持ち込みについて」

⇒大阪府教育庁ガイドライン(素案)は、登下校時の災害対策・防犯目的のための使用を認めることにより校内への持ち込みが認められるもの。今後の府や市の指示を待ってルールを検討したいが、携帯やスマホが学校内での生活に不要なものと考えている。

③ 「働き方改革」に関わって

⇒4月1日より「働き方改革関連法案」施行

残業時間(時間外勤務)の上限 (月45時間 年間360時間 法律による上限)

現状 勤怠管理(カードでチェック)、一斉退勤日試行 など

4月から新たな取組み開始予定

(委員) 本当に先生たちは働き過ぎだと思っているが、事務的な仕事の量は多いのか?

(校長) 一般企業と比較して教員の事務仕事そのものが多いかどうかはよくわからないが、急な対応が多く、予定が変更され、計画的に業務を行うことに支障を来すことは多い。業務の種類が多いことは確かである。

(委員) 先生たちの仕事を何とかして振り分けて、軽減させてあげて欲しい。

(校長) 今、国レベルで教員の仕事の適正化が議論されている。長い経緯の中で、学校が担ってきた仕事が多くなってしまったのかもしれない。学校、教員の仕事の線引き・仕分けは非常に難しい。今後、業務を見直すことで、日々の教育活動の充実を図りたい。

4. 閉会にあたって

(会長) 現在、大阪府内でコミュニティスクールが増えてきている。河内長野を皮切りに、堺・池田・守口で進んできている。府立高校もすべてコミュニティスクール化した。少し補足すると、「コミュニティスクール」は目的ではない。取組みの手段、方法のひとつに過ぎない。めざすべきは、学校を核とした地域(のつながり)づくりであり、「スクールコミュニティ」だろう。そのためには、「地域に開かれた学校」であって欲しいし、学校や子どもたちのことを「我が事」として受け止められる「感性をもった地域」でありたいと思う。摂津市での取組みがどうなるかはわからないが、この学校協議会が学校の経営、運営に関わって、建設的な意見を寄せることができるよう、今後もよろしくお願ひしたい。

次回 平成31年度第1回学校協議会

予定 平成31年5月13日(月)19時

摂津市立味舌小学校 学習室にて